

平成28年度宅地建物取引士本試験 解答予想

(H28.10.19現在)

下記の正解番号は解答予想として、また、合格予想点は問題の難易度から、いずれも当社が予想したものです。
試験結果等が確定したものではありませんので、ご注意ください。
また、本解答予想や試験内容に関するご質問は、対応いたしかねますので、予めご了承ください。

問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10
4	4	3	2	3	3	3	1	2	4
問題11	問題12	問題13	問題14	問題15	問題16	問題17	問題18	問題19	問題20
1	2	2	1	3	1	4	1	4	1
問題21	問題22	問題23	問題24	問題25	問題26	問題27	問題28	問題29	問題30
4	3	2	3	2	1	3	4	3	4
問題31	問題32	問題33	問題34	問題35	問題36	問題37	問題38	問題39	問題40
4	1	3	2	4	4	2	1	2	1
問題41	問題42	問題43	問題44	問題45	問題46	問題47	問題48	問題49	問題50
3	4	2	2	3	2	4	1	3	1

●合格予想点 35 点±1

<試験概要>

●全般的な難易度の印象

権利関係は、昨年と同様に出题形式においていわゆる個数問題が1問出題されていましたが、全般の内容的には昨年より易しかったと思われます。法令上の制限は例年並みでした。税金問題の2問は例年並みでしたが、不動産鑑定評価基準の問題はやや難しかったと思われます。問46～50のその他法令等の問題は例年並みであったと思われます。

宅建業法は、個数問題が昨年より3問少ない5問であり、全般の内容的にも昨年と比較するとかなり得点できたと思われます。合格点は、権利関係と宅建業法の問題が昨年よりも易しい問題が多かったことと、個数問題が昨年よりも3問減っていることを考慮して、前年より4点高い35点前後と考えます。

●出題分野における今年の特徴的な出題

民法の問題では、問9の判決文を読ませたうえでの設問では、比較的新しい判例である平成23年4月22日の最高裁判決を使っていました。

問25の不動産鑑定評価基準の問題は、平成24年以来4年ぶりの出題となりました。